

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-024042
 (43)Date of publication of application : 30.01.1996

(51)Int.Cl.

A45D 40/06
A45D 40/12

(21)Application number : 06-187766
 (22)Date of filing : 18.07.1994

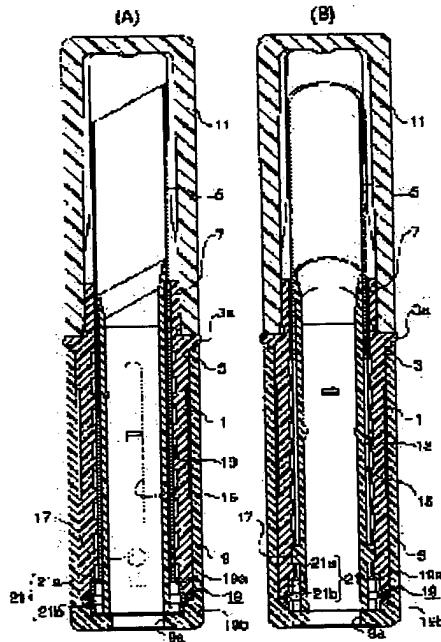
(71)Applicant : HIDAN:KK
 (72)Inventor : ITO KENICHI
 MATAYOSHI HIROFUMI

(54) BAR-SHAPED COSMETIC CONTAINER

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a bar-shaped cosmetic container which is easily assembled by decreasing the number of pieces of cylindrical bodies as constituting parts and with which pull-out of a main body from the container is prevented.

CONSTITUTION: An outside cylindrical body 1 is formed thick. This outside cylindrical body and an inside means 3 arranged above this outside cylindrical body are previously integrated. The outer peripheral part at the bottom end of the main body is provided with a fitting part 19 projectingly provided in an annular shape. A clamping part 21 which freely slidably clamps this fitting part is composed of the bottom end of the outside cylindrical body and the bottom end of a sleeve cylindrical body 9 to be put on the outer periphery of the outside cylindrical body.



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-24042

(43)公開日 平成8年(1996)1月30日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号 庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 4 5 D 40/06
40/12

審査請求 未請求 請求項の数13 FD (全 7 頁)

(21)出願番号 特願平6-187766

(71)出願人 000153926

株式会社ヒダン

千葉県柏市花野井627番地

(22)出願日 平成6年(1994)7月18日

(72)発明者 伊藤 健一

千葉県柏市花野井627番地 株式会社ヒダン内

(72)発明者 又吉 広文

千葉県柏市花野井627番地 株式会社ヒダン内

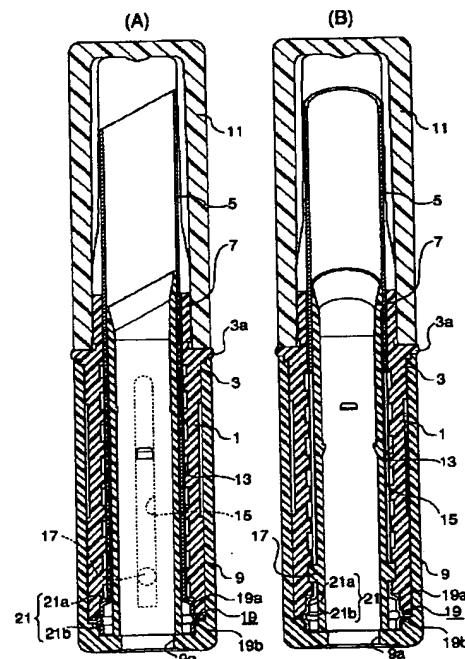
(74)代理人 弁理士 浅野 勝美

(54)【発明の名称】 棒状化粧料容器

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 構成部品である筒体の個数を削減して、組立を容易にするとともに、容器からの本体の抜け防止を図ることが可能な棒状化粧料容器を提供すること。

【構成】 外筒体1を肉厚として上記外筒体と該外筒体の上方に配置される中具3を予め一体化し、上記本体の下端部外周部に環状に突設された嵌合部19を設け、外筒体の下端部及び外筒体の外周に被冠される袴筒体9の下端部とによって上記嵌合部を摺動自在に挟持する挟持部21を構成するようにしたものである。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 筒体からなり下部に長手方向に沿って摺動孔を設けた本体と、筒体からなり内側に上記本体を嵌し且つ内周面に螺旋溝を設けた回動自在の外筒体と、筒体からなり下端部に上記摺動孔を介して螺旋溝に摺動自在に係合される突起を有するとともに棒状化粧料を収容・保持する中皿体と、を具備してなる棒状化粧料容器において、上記外筒体を肉厚として上記外筒体と該外筒体の上方に配置される中具を予め一体化し、上記本体の下端部外周部に環状に突設された嵌合部を設け、外筒体の下端部及び外筒体の外周に被冠される袴筒体の下端部とによって上記嵌合部を摺動自在に挟持する挟持部を構成するようにしたことを特徴とする棒状化粧料容器。

【請求項2】 請求項1記載の棒状化粧料容器において、嵌合部は拡開部及び該拡開部の中間位置に突設された環状突起とかなり、挟持部は上記嵌合部に対応するような形状になっていることを特徴とする棒状化粧料容器。

【請求項3】 請求項1又は請求項2記載の棒状化粧料容器において、外筒体の上方には中具が配置されていて、外筒体と中具は樹脂により一体成形されていることを特徴とする棒状化粧料容器。

【請求項4】 請求項3記載の棒状化粧料容器において、袴筒体と外筒体とは超音波溶着により固定されていることを特徴とする棒状化粧料容器。

【請求項5】 請求項3記載の棒状化粧料容器において、袴筒体と外筒体とは高周波溶着により固定されていることを特徴とする棒状化粧料容器。

【請求項6】 請求項3記載の棒状化粧料容器において、袴筒体と外筒体とは熱圧着により固定されていることを特徴とする棒状化粧料容器。

【請求項7】 請求項1又は請求項2記載の棒状化粧料容器において、外筒体の上方には中具が配置されていて、外筒体は樹脂製であり中具は金属製であり、外筒体の外周面の対称位置に設けたリブを中具の対応位置に設けたスリットに嵌着することを特徴とする棒状化粧料容器。

【請求項8】 請求項7記載の棒状化粧料容器において、袴筒体の内周面の対称位置であって外筒体のリブと直交する方向に設けたリブを中具の対応位置に設けたスリットに嵌着することを特徴とする棒状化粧料容器。

【請求項9】 請求項1乃至請求項8のいずれか一記載の棒状化粧料容器において、化粧料を容器の底面の孔より充填する充填式であることを特徴とする棒状化粧料容器。

【請求項10】 請求項1乃至請求項8のいずれか一記載の棒状化粧料容器において、予め固化された棒状化粧料を中皿体に差し込む差込式であることを特徴とする棒状化粧料容器。

【請求項11】 請求項1乃至請求項10のいずれか一

10

2

記載の棒状化粧料容器において、容器が気密性であることを特徴とする棒状化粧料容器。

【請求項12】 請求項1乃至請求項10のいずれか一記載の棒状化粧料容器において、容器が非気密性であることを特徴とする棒状化粧料容器。

【請求項13】 請求項1乃至請求項12のいずれか一記載の棒状化粧料容器において、本体が比較的小径の管からなることを特徴とする棒状化粧料容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、棒状化粧料を収容・保持する棒状化粧料容器に係り、特に、その構成部品としての筒体の数を削減せしめて、本体の保持を緊密にすることができるよう工夫したものに関する。

【0002】

【従来の技術】従来の棒状化粧料容器は、例えば、図10に示すような構成になっている。まず、袴筒体100があり、この袴筒体100の内周側は、間隔を存した状態で本体101が同軸に配置されていた。該本体101の中央部と袴筒体100との間には、中具103が取付けられていた。上記袴筒体100と本体101との間に内周面に螺旋溝107を螺旋状に設けた外筒体105が配置されていた。本体101の内周側は、中皿体109が配置されていた。

【0003】上記中皿体109は、下端部に設けた突起111、111が本体101の下部に設けられた摺動孔113、113を通って、螺旋溝107に螺合するようになっていた。上記中皿体109に棒状化粧料が収容・保持されることになり、袴筒体100を適宜の方向に回転操作することにより、上記棒状化粧料の繰出し・繰入れを行うようになっていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】上記従来の構成によると次のような問題があった。すなわち、従来の構成の場合には、構成部品の部品点数が多く、その為、組立に手間がかかり、コストが上昇してしまうという問題があった。これに対しては、袴筒体100と中具103とを一体化することが考えられる。しかしながら、従来の容器は、袴筒体100と外筒体105とが別体であり、筒体の肉厚が薄かったので、溶着面積が小となって溶着しにくいという問題があった。このため、仮に、袴筒体100と中具103とを溶着したとしても、溶着が不均衡となって、機械的強度が低下してしまうという問題があった。中具103が強度的に安定しないと、本体101を強固に保持することはできず、結局、容器から本体101が不用意に抜けてしまうことになってしまふ。このような理由から、構成部品である筒体の個数の削減が図られていないものである。

【0005】本発明はこのような点に基づいてなされたもので、構成部品である筒体の個数を削減して、組立を

容易にするとともに、容器からの本体の抜け防止を図ることが可能な棒状化粧料容器を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するべく本願発明による棒状化粧料容器は、筒体からなり下部に長手方向に沿って摺動孔を設けた本体と、筒体からなり内側に上記本体を摺嵌し且つ内周面に螺旋溝を設けた回動自在の外筒体と、筒体からなり下端部に上記摺動孔を介して螺旋溝に摺動自在に係合される突起を有するとともに棒状化粧料を収容・保持する中皿体と、を具備してなる棒状化粧料容器において、上記外筒体を肉厚として上記外筒体と該外筒体の上方に配置される中具を予め一体化し、上記本体の下端部外周部に環状に突設された嵌合部を設け、外筒体の下端部及び外筒体の外周に被冠される袴筒体の下端部とによって上記嵌合部を摺動自在に挟持するようにしたことを特徴とするものである。この際、嵌合部は拡開部及び該拡開部の中間位置に突設された環状突起とからなり、挟持部は上記嵌合部に対応するような形状になっていることが考えられる。また、外筒体の上方には中具が配置されていて、外筒体と中具は樹脂により一体成形されていることが考えられる。また、袴筒体と外筒体とは超音波溶着により固定されていることが考えられる。また、袴筒体と外筒体とは高周波溶着により固定されていることが考えられる。また、袴筒体と外筒体とは熱圧着により固定されていることが考えられる。外筒体の上方には中具が配置されていて、外筒体は樹脂製であり中具は金属製であり、外筒体の外周面の対称位置に設けたリブを中具の対応位置に設けたスリットに嵌着することが考えられる。また、袴筒体の内周面の対称位置であって外筒体のリブと直交する方向に設けたリブを中具の対応位置に設けたスリットに嵌着することが考えられる。また、化粧料を容器の底面の孔より充填する充填式であることが考えられる。また、予め固化された棒状化粧料を中皿体に差し込む差込式であることが考えられる。また、容器が気密性であることが考えられる。また、容器が非気密性であることが考えられる。また、本体が比較的小径の管からなることが考えられる。

【0007】

【作用】本体の下端部外周部には環状に突設された嵌合部が設けられており、外筒体の下端部及び外筒体の外周に被冠される袴筒体の下端部とによって上記嵌合部を摺動自在に挟持するようにしてある。そして該外筒体は肉厚に形成され、外筒体の上方に配置される中具と予め一体に形成してある。これにより、構成部品の部品点数が削減されて組立が容易になり、また容器からの本体の抜け防止を図ることができるものである。

【0008】

【実施例】以下、図1乃至図4を参照して本発明の第1実施例を説明する。この実施例は充填式の棒状化粧料容

器に本願発明を適用したものである。まず、外筒体1があり、この外筒体1は上下端を開放としている。上記外筒体1の上端には中具部3が一体に設けられている。これら外筒体1と中具部3は樹脂製であって一体に成形されている。上記中具部3にはフランジ部3aが突設されていて、後述する蓋体を当接させる当て口になっている。上記外筒体1と中具部3の内周側には本体5が配置されている。この本体5は、引抜き加工により形成されたストレート管より構成されている。本体5の径は後記する嵌合部19を除き同径である。この本体5の内周側には中皿体7が配置されている。この中皿体7内に図示しない棒状化粧料が収容・保持されることになる。上記外筒体5の外周側には袴筒体9が被冠されている。中皿体7の外周側には蓋体11が着脱可能に被冠されるようになっている。上記袴筒体9は、外筒体1及び中具部3に強制嵌合により一体的に嵌着される。袴筒体9の上端は、外筒体1の対応部位に、超音波溶着によって、一体的に形成される。なお、超音波溶着は、外筒体1の外周面と袴筒体9の内周面の対応部位との間でもすることができる。この場合、各部材1、9の一体性をより強固にするため、嵌着部に適宜接着剤を適用することができる。

【0009】図1中、9aは袴筒体9の底面に設けられた孔、12はカプセルを示す。カプセル12は袴筒体9の孔9aより化粧料を充填する場合に型として機能するものである。

【0010】上記外筒体1の内周面には螺旋溝13が設けられている。又、本体5の下部には長手方向に沿って一対の摺動孔15、15が形成されている。又、中皿体7の下端部には一対の突起17、17が突設されている。これら一対の突起17、17は、上記摺動孔15、15を通して上記螺旋溝13に螺合している。そして、袴筒体9を介して外筒体1を適宜の方向に回転操作することにより、中皿体7が昇降することになる。それによって、中皿体7に収容・保持されている棒状化粧料を繰り出したり、繰り入れたりするものである。

【0011】上記本体5の下端部には嵌合部19が設けられている。この嵌合部19は、環状であってある程度の幅をもって拡開された拡開部19aと、この拡開部19aの中間位置に環状に突設された環状突起19bとから2段に構成されている。一方、外筒体1の下端部の一部及び袴筒体9の下端部の一部とによって、上記嵌合部を摺動自在に挟持する挟持部21を構成している。この挟持部21は上記拡開部19aが嵌合する凹部21aと、上記環状突起19bが嵌合する凹部21bとから構成されている。

【0012】既に説明した各構成部品の材質であるが、外筒体1、袴筒体9、蓋体11は、アクリロニトリルースチレン樹脂(A S)、中皿体7はポリブチレンフタレート等の熱可塑性樹脂からなっている。又、本体5はア

ルミニウム製である。尚、材質としては、上記したものに限定されるものではない。

【0013】以上の構成を基にその作用・効果を説明する。まず、外筒体1及び中具部3は、共に、比較的肉厚になっているとともに一体成形されており、それを袴筒体9に超音波溶着により固定するようしている。したがって、連結部の機械的強度も充分であるとともに、部品点数が削減されることになるので、組立作業が容易になりコストの低減を図ることができる。

【0014】また、本体5の嵌合部19は、下端部に形成されていて、拡開部19aと環状突起19bとの2段からなる。このため、まず第1段目の径大部である拡開部19aにより、容器からの外筒体1の抜け防止を図ることができ、円滑な繰出し・繰入れを図るための径大部である第2段目の環状突起19bと役割分担をすることができる。しかも、本体5は外筒体1及び袴筒体9に対して、べたに嵌合しているのではなく、嵌合部19を挟持部21によって挟持するような状態で嵌合されている。これにより、両立することが困難である円滑な繰出し・繰入れを確保しつつ、容器からの本体の抜け防止を図ることができる。

【0015】次に、図5及び図6を参照して本発明の第2実施例を説明する。尚、前記第1実施例と同一部分には同一符号を付して示し説明は省略する。まず、この実施例の場合には、中具3が金属製（黄銅製）であって、外筒体1は樹脂である。この場合、外筒体1の外周面の対称位置にはリブ23、23が突設されている。一方、中具3の下部の対応位置にはスリット25、25が設けられており、リブ23がスリット25に嵌着されるようになっている。また袴筒体9の内周面には、上記リブ23、23と直交する方向に別のリブ27、27が突設されている。一方、中具3の中央部の対応位置には別のスリット29、29が設けられており、リブ27がスリット29に嵌着されるようになっている。上記において、各部材1、3、9間の一体性をより強固にするため、嵌着部に適宜接着剤を適用することができる。上記以外の構成は前記第1実施例の場合と同じである。よって、このような構成であっても、第1実施例の場合と同様の効果を奏すことができる。

【0016】本発明は前記各実施例に限定されるものではない。まず、前記各実施例では充填式を例にとって説明したが、予め固化された棒状化粧料を差し込むタイプにも同様に適用可能である。又、容器の気密、非気密についても問わないものである。

【0017】さらに、本発明は、本体を引抜き管ではなく、平板を絞った筒体から構成するようなタイプの容器にも適用できる。しかし、図示例のように引抜き管より本体を構成すれば、切削加工をする必要がないので加工の安定性が大となり、コスト低下等に寄与するので、一層望ましい。

【0018】また、袴筒体と外筒体との接着の方法は任意であり、例えば、高周波溶着、熱圧着等による溶着、接着剤による接着が考えられる。

【0019】また、第2実施例とは逆にリブ23を中具3に設けこれに対応するスリット25を外筒体1に設け、リブ27を中具3に設けこれに対応するスリット29を袴筒体9に設けることとしてもよい。

【0020】中皿体の形状、形態は任意である。例えば、外形が横断面楕円形のもの（図7）、長手方向の外周面の対称位置に上端より下端までリブ7a、7aを突設したもの（図8）、長手方向の外周面の対称位置に突起17の付近より下端までリブ7b、7bを突設したもの（図9）などとしてもよい。なお、図8及び図9においてAは一部切欠縦断面図、Bは横断面図である。

【0021】

【発明の効果】以上詳述したように本発明による棒状化粧料容器によると、構成部品の部品点数を削減して組立を容易にするとともに、容器からの本体の抜け防止を図ることができるようになった。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例を示す図で棒状化粧料容器の断面図である。

【図2】本発明の第1実施例を示す図で蓋体を被冠した状態の棒状化粧料容器の外観図である。

【図3】本発明の第1実施例を示す図で蓋体を取り外した状態の棒状化粧料容器の外観図である。

【図4】本発明の第1実施例を示す図で蓋体を取り外すとともに棒状化粧料を充填するときに使用するカプセルを取り付けた状態の棒状化粧料容器の外観図である。

【図5】本発明の第2実施例を示す図で棒状化粧料容器の断面図である。

【図6】本発明の第2実施例を示す図で中具、外筒体及び袴筒体の関係を示す分解斜視図である。

【図7】従来例を示す図で棒状化粧料容器の断面図である。

【図8】本発明にかかる中皿体の他の例を示す横断面図である。

【図9】本発明にかかる中皿体の他の例を示す図である。

【図10】従来例を示す図で棒状化粧料容器の断面図である。

【符号の説明】

1 外筒体

3 中具

5 本体

7 中皿体

9 袴筒体

11 蓋体

13 螺旋溝

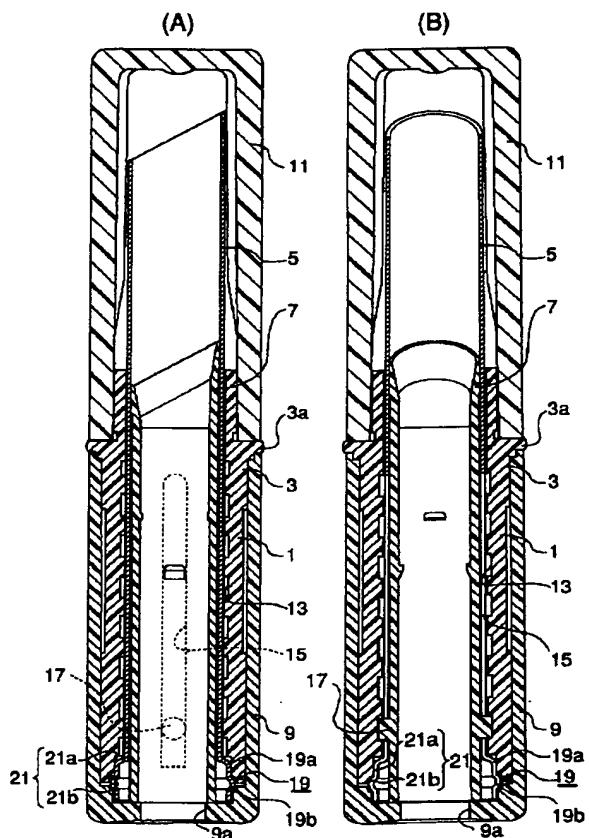
15 摺動孔

17 突起
 19 嵌合部
 19a 拡開部
 19b 環状突起
 21 挾持部
 21a 凹部

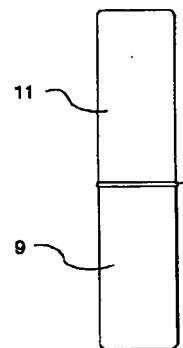
* 21b 凹部
 23 リブ(外筒体の)
 25 スリット
 27 リブ(内筒体の)
 29 スリット

*

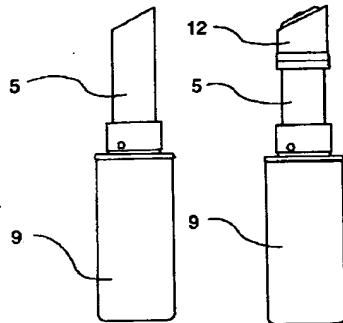
【図1】



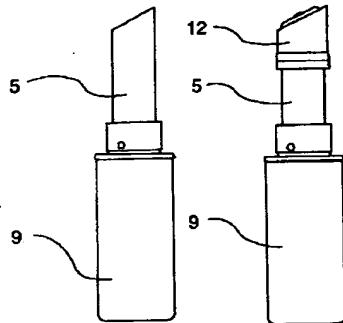
【図2】



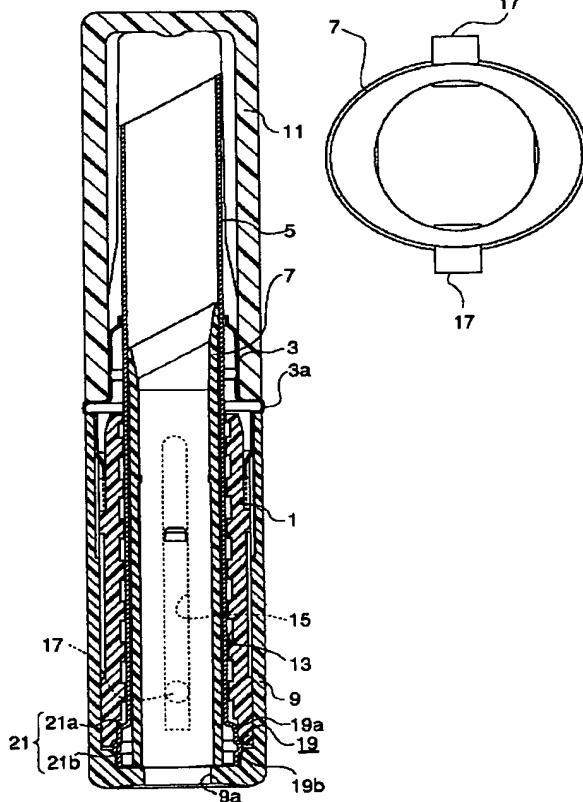
【図3】



【図4】

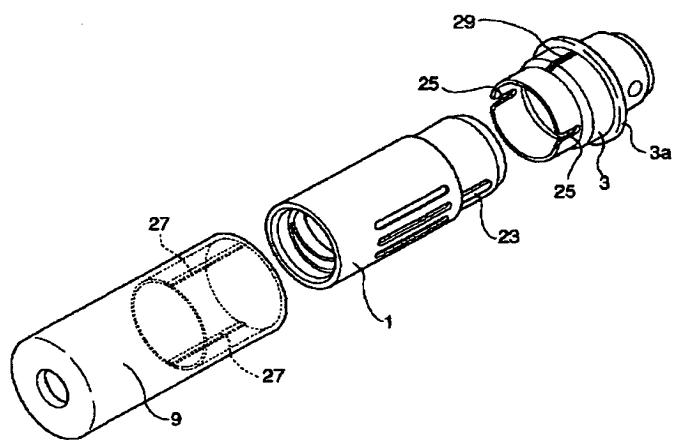


【図5】

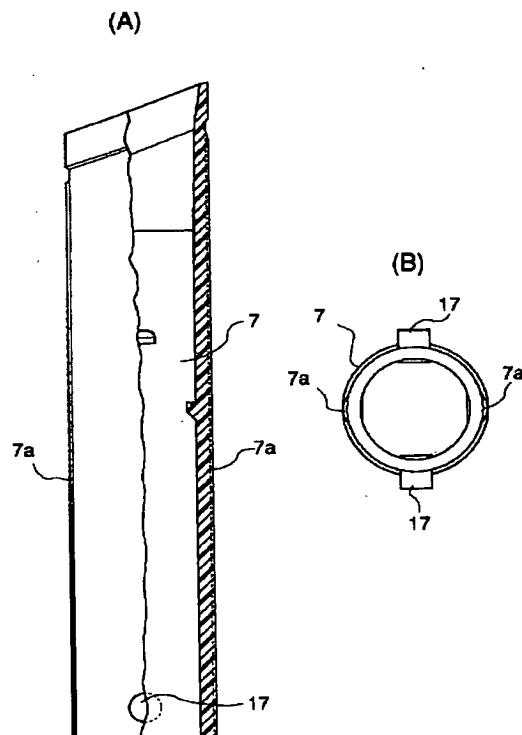


【図7】

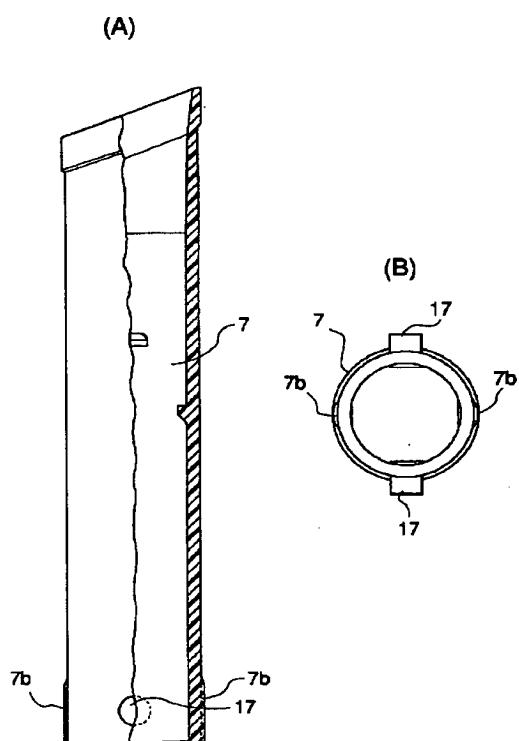
【図6】



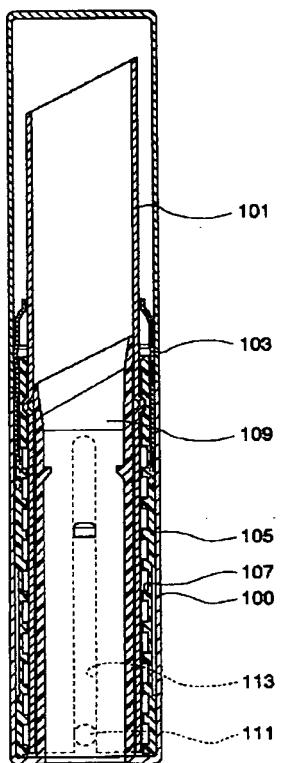
【図8】



【図9】



【図10】



【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成9年(1997)4月15日

【公開番号】特開平8-24042

【公開日】平成8年(1996)1月30日

【年通号数】公開特許公報8-241

【出願番号】特願平6-187766

【国際特許分類第6版】

A45D 40/06

40/12

【F I】

A45D 40/06 0380-3K

40/12 0380-3K

【手続補正書】

【提出日】平成8年5月15日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正内容】

【0012】既に説明した各構成部品の材質であるが、外筒体1、袴筒体9、蓋体11は、アクリロニトリル-スチレン樹脂(A S)、中皿体7はポリブチレンテレフタレート等の熱可塑性樹脂からなっている。又、本体5はアルミニウム製である。尚、材質としては、上記したものに限定されるものではない。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図7

【補正方法】変更

【補正内容】

【図7】本発明の化粧料容器に用いる中皿体の構成例を示す図である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図8

【補正方法】変更

【補正内容】

【図8】本発明にかかる中皿体の他の例を示す図である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】符号の説明

【補正方法】変更

【補正内容】

【符号の説明】

1 外筒体

3 中具部

5 本体

7 中皿体

9 袴筒体

11 蓋体

13 螺旋溝

15 摺動孔

17 突起

19 嵌合部

19a 拡開部

19b 環状突起

21 挟持部

21a 凹部

21b 凸部

23 リブ(外筒体の)

25 スリット

27 リブ(袴筒体の)

29 スリット